



〔写真提供：岡村忠男氏〕

洞内からの眺め

## “土佐の投入堂” 越知町聖神社

越知町南西端の佐川町・旧葉山村との境界付近にあって、かつて幾重もの天まで延びるような見事な段々畑が広がっていたことで知られる小日浦地区(南川字ヒジリ)に、「聖神社」(地元では「聖様」と呼ばれる神社)がある。集落南東の谷の左岸に聳える硬いチャートの岩場にできた岩陰の狭い不安定な斜面に柱を立て、その上にお堂を築いた、さながら鳥取県の三徳山三佛寺奥の院「投入堂」(平安時代後期:国宝)を思わせる、県内にはあまり見られない大変珍しい神社がある。一体いつ頃の、何のために築かれたものかよくわからないが、その「造り」が何とも興味深い。お堂は、ほぼ正面を谷(東)に向けて岩陰にすっぽり収まるようにして建ち、棟までの高さは約4.5mである。平面の間取りは、約5.5m×3.7m(3間×2間)に正面向って左側に1畳の「調理場」が付いた形で、その脇の小さな階段から建物内部に入るようになっていて、正面反対側の岩陰の奥の方に少し出っ張った格好で祭壇が設けられている。内部を仕切る壁や天井はなく、屋根・庇・壁等の建物の外装自体もさほど凝った意匠・装飾性はなく、また堂内の造りも極めて簡素(柱:檜、梁:松、壁板:杉)で、とても国宝の「投入堂」のそれには及ばないが、先人たちの苦勞の程が偲ばれる趣のある神社である。

祭壇には「不動明王」の石像(像高:25.5cm、明治11年寅11月吉日)が1基と、大中小計20数本の「御幣(幣)」、「鏡」(径:5.5cm)1面が木箱に収めて祭られているだけである。他に、天井の梁に鉄製の「鰐口」(径:26cm)が一口吊されているが、製造年代・寄進者等を示す刻印はない。恐らくその形態からして江戸時代後期以降のものと思われる。聖神社の由緒はよくわからないが、お堂の歴史の一端を知る手がかりとして、上述の石像に刻まれた年号の他に、壁に掛けられた木板(修理棟札)がある。

それによると、明治12(1879)年にお堂を改築した際の、大工と地元の周旋(世話)人及び建築用材の世話人を記したもので、山口県の「長州大工」の手によるものであることがわかる。明治12年改築ということなので、お堂が創建されたのは少なくともそれよりは20~30

年前ということになるので、江戸時代後期くらいまでは遡ることが推測される。なお、当初屋根は杉皮葺きであったようだが、傷みが激しく平成元年に地元出身の大工・岡村豊延氏が屋根の裏板と床板を張り替え、現在屋根はトタン葺きになっているが、お堂本体の構造は当時の姿を留めている。

「聖神社」については残念ながらあまり古い話が語り継がれていないが、立地条件や古くから「女人禁制」とされていたことなどから修験道にかかわる神社である可能性が高い。かつては、新暦11月25日と大晦日に神事が行なわれ、特に大晦日には信者らは神官とともにここで一夜を明かし新年を迎えたという。土佐国唯一の修験道の霊場として知られる同じ越知町内の横倉山(横倉宮)は、ここから直線距離にして、北北東約5.5kmの所に位置している。

ちなみに、このお堂のある険しいチャートの岩場の北斜面には、かつてマンガン鉱(Mn)を採掘したという坑道が2箇所ほど見られる。小日浦地区はMnの産出が多く、かつて「神戸製鋼」が大規模に採掘(昭和15~25年頃;小日浦鉱山)し、村が大いに賑わった時期があり、今もあちこちに坑道が残っている。本神社の下を流れる谷のすぐ上流には「聖滝」と呼ばれる滝(落差:約9m、行者が水行をした所?)があり、その東隣の谷にもいくつかのマンガン鉱山の坑道や精錬場跡があり、上流には清流に棲む小型のサンショウウオ(ハコネサンショウウオ?)の姿が見られるという。また、周辺の岩場にはアケボノツツジの古木(推定樹齢:100年以上)が6本ほどあり、ヒカゲノツツジとともに春を賑わせ、山々の秋の紅葉も美しいという。

人里から遠く離れた周囲を山に囲まれ、眼下を清流が流れる俗世間から隔たった静かな環境にいと、いつのまにか時間が経つのも忘れ、心安らいた気分させられる。先人たちもここで無心で祈りを捧げ修行したのであるか…。遙か遠い昔のことを想像してみると夢が広がる。

取材協力 : 岡村忠男・岡村豊延・岡村豊明氏の三名には現地の案内と、岡村康夫氏(共に小日浦出身)を含め聞き取り調査において協力戴いた

## 横倉山で見られるツツジの仲間

大 倉 浩 典

高知県で見られるツツジの仲間は41種類、その中で横倉山で見ることのできるのは15種類で、3月から7月まで次々と花を楽しむことができる。中でもカプト嶽周辺は横倉山でのツツジの“メッカ”で、15種類中トサノミツバツツジ、オンツツジ、ヤマツツジ、アケボノツツジ、カイナンサラサドウダン、コアブラツツジの他、アセビ、ネジキ、シャシャンボ、カンサイスノキ、ケアクシバの11種類を数える。

トサノミツバツツジ(土佐の三葉躑躅)

〔開花期〕3月～5月

〔分 布〕本州(茨城県以西)・四国



横倉山などの標本を元に大正6(1917)年、牧野富太郎博士が命名した横倉山を代表する植物の一つで、高さ1～3mの落葉低木。横倉山では上ノ峠分岐点付近から第2駐車場までの斜面岩場や南遊歩道(「四国のみち」)のカプト嶽周辺から続く尾根筋、住吉周辺で見られ、3月下旬から5月上旬にかけて、葉の展開する前に美しい花を咲かせる。

葉は長さ4～8cm、幅3～6cmの広い菱形で中央部分が最も幅の広い3枚の葉を枝先に輪生する。

花は紅紫色で、普通3個ずつ枝先につく。花冠は直径3～4cm、漏斗形で深く5裂する。雄しべは約10本、雌しべの子房や花柄には短い腺毛があり粘る。

蒴果は8月～9月頃熟し、外面には短い腺毛があり、花の見頃は4月中旬。

これによく似たコパノミツバツツジでは、花は枝先に1個、葉は中央部分より少し下の方で最も幅が広い。雌しべの子房には白毛が密生、花柄にも白毛と黄褐色の、また蒴果にも黄褐色の毛があり、比較的区別はやさしいが横倉山では見当たらない。

オンツツジ(雄躑躅)[別名:ツクシアカツツジ]

〔開花期〕3月～5月

〔分 布〕本州(三重県・和歌山県)・四国・九州

高さ3～6m近くなる落葉小高木。県内のミツバツツジの仲間では低地でも見られる最も馴染み深いツツジで、別名“ツクシアカツツジ”と言われるように、直径5cm程の朱のかかった真赤な花は、木々の新緑に映え人々に春の訪れを強く感じさせる。横倉山では林道沿いや山中いたる所に点在し、4月中旬が花の見頃であるが、場所によっては3月下旬～5月中旬まで花を楽しむことができる。

オンツツジの“オン”は「雄」の意味で、同じ頃に咲くやさしい藤色の小花で、樹高も低いフジツツジ(別名:メンツツジ)に対して、花も朱紅色で大きく、樹

高も高いので「雄」(オン)の名がつけられた。

フジツツジ(藤躑躅)[別名:メンツツジ]

〔開花期〕3月～5月

〔分 布〕和歌山県・四国(南部)・九州(東部)

高さ1～2mの半常緑性低木で、基準産地は須崎市桑田山。細かく分かれた細い枝につくピンク系の漏斗形の花は、直径2～3cmで可憐で美しく、男性的なオンツツジに対して、こちらを高知県では“メンツツジ”と呼ぶこともある。

花が終わった後に出る葉を春葉と呼び、長楕円形で長さ1.5～3cm、両端はとがり両面に褐色の毛がある。夏から秋に出る夏葉は枝先に輪生状につき、春葉はよりも小さく冬を越す。横倉山で採集の記録はあるが、現物はまだ確認していない(どなたか生育地を見かけたら是非自然の森博物館までご連絡ください)。

ヤマツツジ(山躑躅)

〔開花期〕4月～7月

〔分 布〕北海道(南部)・本州・四国・九州

初夏の山を彩る日本の野生ツツジの代表で、北海道から九州まで見ることができる。

高さ1～3mの半常緑低木で、明るい林内や林縁、日当たりの良い尾根筋や岩場などでよく見られる。横倉山ではカプト嶽周辺や畝傍山眺望所、住吉、エボシ岩などの尾根筋や岩場で5月下旬から場所によっては8月頃まで花を見かける。

葉は春に出て秋に落葉する春葉と夏から秋に出る夏葉があり、夏葉の多くは越冬する。葉の両面に毛が密生し、特に裏面脈状や葉柄には偏平な毛が多い。

花は枝先に朱色の花を2～3個つけ、花冠は直径4～5cmの漏斗形で、上側の裂片には濃色の斑点があり、横倉山での花の見頃は6月上旬である。

キシツツジ(岸躑躅)

〔開花期〕3月～5月

〔分 布〕本州(岡山県以西)・四国・九州(北部)

川の上流の岸辺で増水時には冠水するような場所に生えるツツジで、溪岸植物の一つである。高知県の主要河川のうち、何故か物部川だけは自生が確認されていない。若葉・葉柄・花柄・萼などには腺毛があり粘るが、物部川以東で見られるモチツツジほどは粘らない。

越知町仁淀川沿い(横倉山の麓)の標本で牧野博士が命名した横倉山を代表する植物の一つである。

高さ1～1.5mで半常緑性低木。葉は互生で枝先に集まってつき、春葉は長さ3～5cmの披針形ま





たは倒披針形、夏葉は披針形で春葉より小さい。

花は葉の展開と同時に枝先に1~3個、淡紅紫色で花冠は直径4~6㎝、ややすぼみ加減に開き、上側の裂片には濃色の斑点がある。

横倉山では寺村橋南詰の国道下の川岸で見られ、花の見頃は4月中旬。

アケボノツツジ(曙躑躅)[別名:アカヤシオ]

[開花期]3月~6月

[分 布]本州(和歌山県・奈良県)・四国



高さ3~6㎝になる落葉小高木で、よく分枝し、葉は長さ2.5~4.5㎝の広い楕円形、葉柄に2~5ミリの長毛があり、枝先に5個輪生する。

花は葉の展開前に、その名前にふさわしい明るい淡紅紫色の花を枝先に1~2個つける。花冠は直径約5㎝、広く開いた漏斗形で深く5裂し、裂片は逆ハート形で先端はへこみ、全体的にふっくらとして丸みのある美しい花で、日本の野生ツツジの中でも名花と言える。

基準産地は旧吾川村。

横倉山ではカプト嶽、三角点、エボシ岩周辺の岩場で見られ、花の見頃は4月下旬~5月上旬である。

カインンサラサドウダン(海南更紗満天星)

[開花期]4月~5月

[分 布]本州(愛知県・三重県・和歌山県)・四国(太平洋側)



高知県内のドウダンツツジの仲間では本種が最も分布が広く、標高の低い所でも見られる。ドウダンツツジの名前は「牧野新日本植物図鑑」によると“灯台ツツジ”の意味で、輪生して出る枝ぶりが結び灯台(3本の本木を合わせ中程でくくり、上下を拡げて上に油皿を置いたもの)に似ている所からついたとある。

樹高1.5~5㎝の落葉低木で、葉は長さ2.5~7㎝、枝先に輪生状につく。5月~6月頃、枝先から長さ5~10㎝の長い総状花序が垂れ下がり、淡紅色の花を8~20個つける。花冠は長さ7~9ミリの、広鐘形で先端3分の1位まで5裂する花を下向きに咲かせる。花冠の淡紅色の色合いが「サラサ(更紗)」の名の出所と思われる。なお結実後蒴果は上向きになる。

横倉山では南遊歩道(「四国の道」)途中の休息場の下の方からカプト嶽周辺の尾根筋、畝傍山眺望所周辺や第1駐車場下のトサミズキ園入口左側の雑木林の中でも見られ、花の見頃は5月中旬。

ベニドウダン(紅満天星)[別名:チチブドウダン]

[開花期]5月~6月

[分 布]本州(関東地方以西)・四国・九州

高さ2~4㎝の落葉低木で、葉は狭い倒卵形で長さ2~5㎝、枝の先に数個輪生状に互生する。初夏に小枝の先端から総状花序が垂れ下がり、紅色で柄の有る短い鐘形の花を開く。花冠は長さ5~8ミリの浅く5裂し、カインンサラサドウダンの花冠の裂片は全縁であるが、ベニドウダンでは細かく切れ込む。花後果穂は垂れ下がったままで、果柄だけがきゅっと曲がって、蒴果は上向きになる。

横倉山では住吉の三嶽古道南廻り入口の崖の上に1本だけあり、花の見頃は5月中旬。

コアブラツツジ(小油躑躅)

[開花期]5月~6月

[分 布]本州(東海地方・紀伊半島)・高知県

高さ1~3㎝の落葉低木。葉は長さ2~4㎝、倒卵形または楕円形で枝先に5個輪生状に互生する。“油ツツジ”の名の由来は、『牧野新日本植物図鑑』によると、「葉の裏側が滑らかで光沢があり、丁度油を塗ったようであることから」とある。

花は5月~6月頃、枝先に総状花序を下垂し、緑白色の花を開く。花冠はツボ状で長さ4~5ミリの、先端は浅く5裂し裂片はそり返り、花柄は湾曲する。

高知県内のドウダンツツジの仲間、コアブラツツジだけが果時に蒴果が下向きのままで上向かないのが特徴である。

高知県内の生育地は、土佐山田町と旧東津野村の不入山、それに横倉山の3ヶ所だけで、いずれも岩場で個体数は少ない。横倉山ではカプト嶽の尾根筋だけで見られ、花の見頃は5月下旬。

アセビ(馬酔木)[別名:アセボ・アシビ]

[開花期]3月~5月

[分 布]本州(宮城県・石川県以西)・四国・九州

山地の日当たりのよい乾燥した場所を好む、高さ1~8㎝の常緑小高木。つやのある厚い葉と垂れ下がる白い花穂との調和のよさや、枝振りのおもしろさで庭木としてもよく植えられている。

花は2月下旬頃~5月にかけて、枝先の葉腋から長さ10~15㎝の円錐状の花穂が垂れ下がり白色の花を下向きに多数つける。花後、蒴果は上向きに曲ってつく。



奈良公園でアセビが多いのは鹿が食べないからで、全草にアセボプリン・アセボテイン・アセボトキシンなどの有毒成分を含み、家畜がこれを間違って食べると中毒して酔っ払ったようになるので漢字では「馬酔木(アシビ)」と書く。昔はこの葉を煎じて殺虫剤として利用した。

近年全国で鹿の食害による森林破壊が問題になっているが、早急に対策を講じなければ、日本の森林はアセビとネジキの森になるかも知れない。但しシカも食べないアセビでも、蛾の一種ヒョウモンエダシャクの幼虫のように食草がアセビの葉で、体の中に毒素を蓄え鳥類から身を守るとい生活をしている動物もあり、自然界とは不思議な所である。

横倉山でも至る所で見かけるが、特に山小屋の上の

行在所入口の反対側を右上に登った平安神社周辺の通称「アセビヶ森」一帯には、寿命で随分数は減ったが現在でも幹が曲がりくねったアセビの古木が35株ほど見られる。

ネジキ（捺木）〔別名：カシオシミ〕

〔開花期〕5月～6月

〔分 布〕本州（山形県・岩手県以西）・四国・九州・台湾・中国

丘陵や山地の乾燥した尾根や斜面に生える高さ2～8mの落葉小高木で、樹皮は灰褐色で老木になると樹皮の割れ方で、幹がねじれて見えるので「ネジキ」の名前がついている。

葉は互生し長さ5～10cmで卵状楕円形、洋紙質で鋸歯はなく先は急に尖っている。

花は白いツボ形で長さ8～10cm、先は浅く5裂し5月～6月頃、前年の葉腋から長さ4～6cmの総状花序を出し、一列横隊に整然と並んで下向きに咲く。蒴果は長さ3～4cmのやや扁平球形で上向きにつく。横倉山ではカプト嶽の尾根筋や山中に点在、花の見頃は6月上旬。

枝は洋傘の柄、樹は庭木、花は生花の材料として使われる。別名「カシオシミ」の意味は不明。

シャシャンボ（子子ん坊）

〔開花期〕6月～7月

〔分 布〕本州（千葉県・石川県以南）・四国・九州・沖縄・東南アジア

暖かい地方の林の中に生える高さ2～3mの常緑低木。葉は互生し厚い革質で長さ3～7cmの卵状楕円形、先は鋭く尖る。

5月～7月頃前年枝の葉腋から3～8cmの総状花序を出し、花冠は5～7cmで先は浅く5裂してそり返る筒状ツボ形で、白色の花を一列に並んで下向きに多数つける。果実は液果で直径5cmの球形、9月～10月頃紫黒色に熟し甘酸っぱく食べられる。

「シャシャンボ」の名前の由来は『牧野新日本植物図鑑』によると、「ササンボすなわち小小ん坊の意味で、実が丸くて小さいことによる」とある。

横倉山ではカプト嶽周辺で見られる。

ナツハゼ（夏櫨）

〔開花期〕5月～6月

〔分 布〕北海道・本州・四国・九州・朝鮮・中国

山地や丘の日当たりの良い所、特に花コウ岩地を好む高さ1～2mの落葉低木。高知県では比較的稀な植物である。

葉は長さ3～8cm、広卵形で両端とも尖り全縁、表面やふちには先端が腺になった粗い毛が生え特に主脈上に多い。

花は5月～6月頃今年出た枝から総状花序を水平に出し、花冠は長さ4～5cmで先端は浅く5裂し少しそり返り、赤味を帯びた浅黄緑色で、鐘形の花を枝の片

側に寄って一列になり下向きに咲く。果実は液果で直径4～6cmの球形で、8月～10月頃黒熟し甘酸っぱく食べられる。

横倉山での採集記録はあるが、現物はまだ確認していない。



カンサイスノキ（関西酢の木）

〔開花期〕4月～6月

〔分 布〕本州（東海・近畿・中国地方）・四国

山地の林内や林縁で見られる、高さ1～2mの落葉低木で、よく枝分かれます。葉は互生し長さ1～3cmの楕円形、先端は少し尖りふちには内側に曲がる細い鋸歯がある。葉の裏面に短毛があり、主脈や側脈・葉柄に曲った毛が密生する。関東地方で見られるスノキは葉柄などに毛が密生しない。

花は6月～7月頃、前年枝の葉腋から短い総状花序を出し、花冠は緑白色または紅色を帯びた約5cmの鐘形で、先端が浅くそり返る花を1～4個下向きにつける。果実は液果で直径7～9cmの球形で、7月～8月紫黒色に熟す。「スノキ」の名前の由来は葉を噛むと酸っぱいことによる。

横倉山では南遊歩道（「四国の道」）途中の休憩場付近からカプト嶽周辺、畝傍山眺望所、住吉付近に多く、花の見頃は5月中旬。

ケアクシバ（毛青木柴）

〔開花期〕5月～7月

〔分 布〕本州（中部地方南西部以南）・四国・九州・朝鮮

山地の林縁に生える落葉低木で、高さ30～90cm。若い枝は緑色で腺毛が生えまばらに枝分かれし地面を這うように伸びる。

葉は互生し濃緑色で卵形、長さ2～6cmで先は鋭く尖り、ふちには細かい鋸歯がある。

花は初夏の頃、葉腋から腺毛のある1～2cmの花柄を下垂らし、花冠は長さ7～10cm、深く4裂し裂片は外側にくるとそり返り、丁度ウリノキの花に似た淡紅白色の花を下向きに開く。果実は球形の液果で熟すと赤色となり下垂する。

アクシバの名の由来は、この柴を燃やした灰を灰汁抜きに使ったことによる。

横倉山では南遊歩道（「四国の道」）途中の休憩場の少し下の辺りからカプト嶽の鎖場途中や、カプト嶽の尾根筋、畝傍山眺望所などで見られる。花の色合いや形がユニークで、とても可愛らしいがあまり目立たないので、案外見落とすことが多い。

〔参考文献〕

- 『牧野新日本植物図鑑』（1961, 牧野富太郎）
- 『南四国の自然』（1965, 上村 登 編）
- 『愛媛の自然』（1975, 愛媛文化双書）
- 『高知県の植物と植物相』（1978, 山中二男）
- 『野外ハンドブック・6 樹木1』（1979, 山と溪谷社）
- 『山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花』（2001, 山と溪谷社）
- 『高知県の植物誌』（2009, 高知県）

（おおくら こうすけ / 元高知県立中央高等学校教頭・植物研究家）





# 牧野富太郎博士と佐川町吉田屋敷の植物化石

安井 敏夫

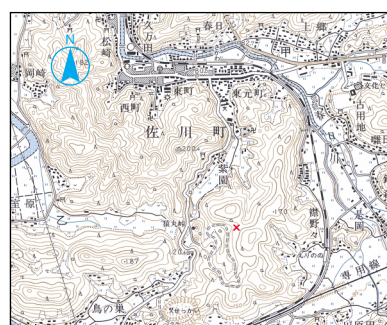


ソテツの仲間  
〔廣田隆吉標本〕

高知県佐川町出身の世界的な植物学者・牧野富太郎博士は、自らの専門であった植物学以外にもいろいろな学問に興味・関心を抱き、積極的に知識の吸収に努めている。その一つに化石が挙げられるが、博士は明治時代に当時の著名な地質学者で、ドイツ人

地質学者 エドモント・ナウマン博士の一番弟子（一期生）であった小藤文次郎博士が佐川に地質調査に訪れた際にも同行して、一緒に化石採集を行なっている。そんな中で、佐川の「吉田屋敷」<sup>1</sup>とよばれる地域でかつて植物化石が産出し、博士自身も採集したことを自らの著書に記述している。

佐川町そして隣の越知町は、中・古生代の地層が集約され各時代の動物化石を豊富に産することで昔から有名であるが、それに反し、植物化石の産出は極めて稀である。そんな中であって、ここ「吉田屋敷」からは、ナウマン博士が命名した「鳥ノ巣石灰岩」と同時代の中生代ジュラ紀後期〔約1億5000万年前〕の植物化石〔シダ植物：Cladophlebis sp., Nilssonia cf. nipponensis Yokoyamaなど〕を産する〔写真〕。植物化石はあまり保存状態は良くないが、同時に二枚貝や腕足類、それに最近新たに見つかったクモヒトデなどの化石を伴うことから海成の堆積物であることがわかる。ちなみに、クモヒトデの化石は、日本ではジュラ紀の地層からは二例目で、鳥ノ巣層群からは初めての発見であり、現在専門家により研究が進められている。発見は地元の熱心な化石マニアによるものである。



〔2万5千分の1地形図「佐川」〕

「吉田屋敷」は、JR佐川駅の南にある猿丸峠<sup>2</sup>の東方約500m付近〔図の×印〕にあり、少しくぼんだ地形を成し、現在は荒地になっている。

100年以上も前の牧野博士の頃とは随分様相が異なっていると思われるが、博士は自著『牧野植物一家言』（北隆館，1956）の中の「佐川の化石」の章で次のように述べている。『...佐川の御土居<sup>3</sup>前からズット奥の「吉田屋敷」で、私は珍しくも、植物の一化石を得た事があった、即ち其れは山の斜面で水の泉んであた処で在った、即ち其の形は単羽状葉の一部であったが、多分其者は太古のソテツ類乎、或は其近縁の植物であらうと考へられる、併かし太古の者ゆゑ其属名も種名も共に無論判明しないが、兎に角稀な化石であった...』。また、『我が思ひ出』（北隆館，1958）の中のやはり「佐川の化石」の項でも『...高岡郡の佐川は、化石の産地として、有名で在り到る処に、種々な、化石が見出される、...香美郡の領石村からも、羊歯類の化石が出て、佐川の吉田屋敷<sup>4</sup>からも、太古の蘇鉄類似の、化石が出たことが在った...』と述べている。

100年以上も前に博士が実際に植物採集をした場所に今立ってみると、何とも感慨深いものがある。



シダ植物・腕足類  
〔廣田隆吉標本〕

- 1 佐川深尾家臣・吉田新右馬の屋敷跡もしくはその付近を指すものと思われる
  - 2 平安時代前期の伝説的の歌人で、「三十六歌仙」の一人である猿丸大夫に由来すると言われている。『小倉百人一首』の中に、次の歌が詠まれている。  
おくやまにもみぢふみわけなくしかの  
こゑきくとときそあきはかなしき
  - 3 「猿丸峠」という地名は、佐川土居下から斗賀野へ通じる往還道にあったことが江戸時代初期の絵図の中にすでに記されている。
  - 4 かつて佐川領主・深尾家の土居屋敷のあった場所を指す
- 「吉田屋敷」のことで、「敷」が書き抜かれたものと思われる

（やすいとしお / 横倉山自然の森博物館 副館長兼学芸員）



## 博物館行事

企画展：科博コラボ・ミュージアム in 越知

『恐竜・アロサウルスとその時代』

〔2010年9月25日(土)~12月26日(日) 主催：越知町立横倉山自然の森博物館・財団法人 科学博物館後援会・独立行政法人 国立科学博物館 / 共催：国立大学法人 高知大学〕

国立科学博物館所蔵の恐竜・アロサウルスの実物全身骨格標本をメインに、その時代に生きていた県内外のさまざまな動植物の化石から、当時の地球の様子や古環境などについて考える機会とする。アロサウルスは、中生代ジュラ紀〔約1億5000万年前〕に地球上に君臨していた、当時最強で最大の肉食恐竜として知名度が高い。県内では初めての公開であり、滅多にこの種の本物の恐竜化石を見る機会もないことから、特に子供たちに感動と夢を与える目的で開催する。ちなみに、同時代の生きものとして、県内関係では、ドイツ人地質学者 エドモント・ナウマン博士によって命名された、佐川町を模式地とする「鳥ノ巣石灰岩」

中に含まれるサンゴやウニなどの化石がある。

県内初の知名度の高い実物の恐竜の全身骨格の展示ということで、これまでの企画展の中で最高の入館者数を記録することができた(一日の入館者数としても記録更新)。本物の化石に触れたり、「恐竜当てクイズ」「化石のレプリカ作り」などの体験コーナーもあり、多くの子供たちに楽しんでもらうことができた。また、期間中国立大学法人高知大学「メディア ホール」において、『最新恐竜学』と題して真鍋 真氏(国立科学博物館地学研究部 研究主幹)による講演会も開催し、充実した企画展とした。

企画展の主な感想として、「あんなでかい生きものがいたなんて信じられない」「とても迫力があって楽しかったです」「実物の化石が見れるなんて凄い」「本物を観ることができ最高です」「“恐竜大好き”な息子が大喜びでした!!親子で楽しい時間が過ごせました」「恐竜のリアルな映像がおもしろかった」「化石作り」が楽しかったです」などがあった。



## 友の会だより

「炭焼きに使う木の伐採」

〔2011年1月22日(土) 参加者：10名〕

炭焼きに利用する木を旧松山街道上り口の堂岡で伐採した。2時間の作業で軽トラック5台分の木が伐採出来た。

この日も、いつも友の会のイベントに参加してくれる新居浜市の合田夫妻が応援に駆けつけてくれた。



の一環。天気も良く双眼鏡による観察では、最も暗い星として「11.3等級」まで確認できた参加者もいた。

「ものづくりをしよう」

〔2011年2月11日(土) 講師：渡辺寛子、参加者：友の会会員13名、一般11名、スタッフ2名〕

「新聞バッグ作り」と「ストーンペインティング」の2教室を午前・午後の2回にわたって開催。前者は、新聞の文字や色の配置によって結構「おしゃれ」なものができる。一方、後者では、仁淀川産の美しい石の小さな「キャンパス」にいろんな色・画材の芸術の世界が広がっておもしろい。



「スターウォッチング~冬の天の川 すばる」

〔2011年2月1日(土) 講師：片岡重敦(元横倉山自然の森博物館館長) 参加者：友の会会員12名、一般3名〕

環境省と譜日本環境協会主催の「全国星空継続観察事業」





## スタッフの声、声、声

〔山中〕 昨年の12月24日付けで、横倉山自然の森博物館長に就任しました、山中弘孝です。よろしくお願いします。

先ず、横倉山の魅力について知ってほしいと思います。

1つ目は、4億年以上前の地層があり化石の宝庫であること。2つ目は、植物の種類が多く、牧野富太郎博士の研究の山として有名であること。3つ目は、昔土佐で唯一の修験道の霊場として栄えたこと、また、安徳天皇潜幸伝説、御陵参考地をはじめとする平家落人の史跡があり、山全体が神秘とロマンに満ちているということです。

横倉山自然の森博物館では、横倉山の生い立ち、地球の歴史、横倉山の歴史と伝説、牧野富太郎博士と横倉山についての展示があり、学習の場として、また、企画展の開催など文化活動の拠点になっています。特に地元の越知小学校、越知中学校の総合学習で、横倉山を中心とした越知の自然など地域を調べる学習に活用され、郷土を愛する心の育成にも役立っており、越知町で育った子どもたちが、町外に誇れる越知町を代表する施設となっています。

また、県下の小中高校の学習の場として、遠足のコースとしても活用されており、雨天の昼食場所として、総合運動場や町民会館の施設の一部を利用してもらうなど便宜をはかり、県下の多くの学校から来ていただけるようにしたいと考えています。

『ジオパーク（地質遺産）』認証は、平成20年度から佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、梶原町の6町村で推進協議会を設置して、世界ジオパーク認証を目指して取り組んでいます。

最後に、この横倉山と博物館は越知町だけの財産ではなく、高知県の日本に誇れる財産として、維持、発展させなければならぬと考えておりますので、町民は基より、高知県内の皆様のご協力をお願いします。

〔河添〕 ご存知ですか？「谷の内フラガールズ」。恥ずかしながら私もダンサーの一人です。谷の内フラガールズ誕生秘話をお聞かせください。教育委員会で行っている高齢者学級「いきいき長生き学園」、3年前の卒園式・フラダンスの会に参加して下さった谷の内区長さん夫婦に、「地区のお花見を盛り上げるためにフラダンスを教えてくださいませんか？」という依頼があり、「それでは、ここは一発踊らせていただきます！」と個人的に協力させていただき、あっという間に「谷の内フラガールズ」がめでたく誕生し、テレビ出演まで果たしたのです。最近、越知町のお祭りや老人介護施設からお呼びがある時、フラダンスと笑顔を披露しています。その活動のパワーの源、実は「映画フラガールズ」に夢と希望と感動を与えられた単純？な私と、純粹！な町女子職員1名の「いつか、慰安旅行で谷の内のおばちゃん達を福島フラガールの温泉に連れて行けたらいいね！」という同じ思いからでした。「映画フラガール」の地元、福島県いわき市の温泉レジャー施設は、現在、震災や原発で再開の目処が立っていないということです。

しかし、「復興のシンボルになってほしい」と願う地元の声が後押しになり、フラガール達は45年ぶりに全国を巡業することになったそうです。かつて日本が石炭から石油へ激動した時代、閉坑を余儀なくされた炭鉱会社は、その当時日本人が最も海外旅行で行きたい地「ハワイ」に着目してハワイアンセンターを設立し、観光の街として再生しました。日本中が福島の皆さんの不屈の精神を信じています。「まげんな東北！がんばれフラガール！！！」

〔安井〕 昨夏の猛暑、“地球温暖化”に疑問を抱きたくなるような今冬の厳寒。そんな所に春早々「ニュージーランド地震」が起き、志半ばにして多くの若き日本人学生が命を落としたという悲報を知ったのも束の間、今度はマグニチュード(M)9.0というわが国の観測史上最大の巨大地震「東日本地方太平洋沖地震」が発生した。太平洋側の広い範囲にわたって大津波の被害を受けて家屋の流失、1万人を越す尊い人命が一瞬にして奪われた。車・人家・船が軽々と濁流に流されていく映像は、まるで悪夢のような信じられない光景であった。住み慣れた思い出の詰まった我家や家族を失い、街全体が跡形もなく消えてしまった所もある。地震津波という自然の猛威・恐ろしさをまざまざと見せつけられたような思いであった。人間が如何に自然の前では無力であるかを知らされた。我々はこの痛ましい事件を決して無にすることなく、今後の未来のための教訓としなければならない。人類がこの地球上に生活する以上、自然と共存していくしかないのだから…。それにしても、「阪神淡路大震災」の時もそうであったが、逆に立たされた被災者から逆に“生きる勇気”を与えられることが多い。

今回の大震災で、日本中の人々のみならず、世界中の国々が被災地日本のことを思い、被災者の捜索、援助に協力してくれたことは本当に心暖まる思いがした。人類がお互い助け合って生きることの大切さも身に染みて感じた。

〔壬生〕 博物館のスロープ沿いの桜が綺麗です。ヒラヒラ舞い下りる様子は心が和みますが、池の排水溝に詰まり困っています。メタセコイアにも若葉が見え始め新緑の季節へと移り変わろうとしています。

開催中の企画展「即興詩と切り絵の世界」へ多くの来館をお待ちしています。

〔伊藤〕 去年初上陸した、岡山県岡山市の小さな有人離島・犬島に今年も行くことになりました。今回は、すぐ隣にある犬ノ島で行われる犬石様のお祭りに合わせました。この島は私有地ですが、1年に一回のお祭りの日は一般人も渡ることが出来ます。とても楽しみです。

〔小野〕 畑の隅に植えてあるサクランボの木。今年は花つきが良く、たくさんの花が咲いていました。毎年サクランボが生ることを楽しみにしていますが、なかなか実にはりません。今年こそは自家製のサクランボが味わえると期待しています。

## 横倉山ミニ歳時記

## モクズガニのアルビーノ

昨年秋、越知町内の仁淀川で、地元の宮崎和久氏が仕掛けたカニ籠で「モクズガニ（藻屑蟹）」のアルビーノ（白子）が捕獲された。本来モクズガニは、褐色の“藻屑”のような長毛が房状に密生した大きなハサミを持ち、全身が暗緑色であるが、今回捕れたのは、甲羅が白っぽい青白色。何年か前に、和久さんの父親で川漁師として有名だった故・宮崎弥太郎氏も一度捕獲したことがあるという珍しい種。

また、以前やはり同じ町内で見つかったカエルのアルビーノである“青いアマガエル”を紹介したことがあったが、今回のカニも同様で、動物の組織内にある褐色ないし黒色の色素であるメラニン色素の欠乏あるいは欠如によって起こるものである。モクズガニは“ツガニ”とも呼ばれ、地元では甲殻を“味噌（蟹黄）”と一緒に磨り潰してネットで漉して「ツガニ汁」にして食べるが、結構おいしいものである。



〔博物館日誌(抄)・平成23年度博物館行事予定〕

2010年9月25日(土)~12月26日(日)  
企画展:『恐竜・アロサウルスとその時代』  
2011年3月15日(火)~27日(日)〔3階展望ロビー〕  
企画展:『I T O Mのアトリエ』  
4月9日(土)~6月19日(日)  
企画展:『濱崎一途・松本卓弥 二人展  
- 即興詩と切り絵の世界 - 』  
7月23日(土)~9月4日(日)  
企画展:『からくりの世界』(仮称)  
7月~8月  
夏休み博物館教室〔昆虫・植物・工作・化石〕  
9月23日(金・祝)~2012年1月9日(日)  
企画展:『みんなで選ぶ! おもしろ アニマルフォトコンテスト & 写真展Part 』

〔博物館友の会「フォレストクラブ」の平成23年度活動予定〕

2010年11月27日(土) 竹の子の里づくり  
(里山保全活動 - 森と緑の会 - )  
12月18日(土) 炭焼き体験  
2011年1月1日(土) 初日の出を横倉山で  
1月8日(土) 炭焼き体験

1月22日(土) 炭焼きの木伐採  
2月1日(火) 冬の星空観察会  
(スターウォッチング  
~冬の天の川 すばる~)  
2月11日(金) もの作り教室  
(新聞バッグ・ストーンペインティング)  
2月26日(土) 炭焼き体験  
5月5日(木・祝) 呈茶(3階展望ロビー)  
5月15日(日) “東洋のマチュピチュ” 別子銅山跡視察  
5月 友の会運営委員会  
友の会総会  
仁淀川水質調べ  
(「身近な水環境の全国一斉調査」)  
6月 炭焼き体験  
横倉山ヒメボタル観察会  
スターウォッチング  
~夏の天の川・こと座~  
9月 秋の横倉山ハイキング  
10月 視察研修 - “パワースポット” 伊勢  
神宮と平城京 - (一泊二日)(予定)  
11月 緑の募金公募事業  
12月 炭焼き体験

## みんなで選ぶ! 『おもしろアニマルフォトコンテストPart II』

横倉山自然の森博物館では、すべての生きものに親しみを感じ、生きものたちの意外な一面を知ってもらうために、身近な動物のユーモアな写真や珍しい、芸術的な写真を募集します。応募規定は下記のとおりです。どなたでも、ふるってご応募ください。

### 【応募要項】

- 応募資格** 年齢、職業(プロ、アマ)等は問いません。子どもたちも気軽に応募してください。
- 応募方法**
- 2Lサイズ以上(4枚までの組写真も可)。カラー、モノクロは問いません。スナップ写真でも結構です。ただし、デジカメで撮影したものは修正(合成)を加えないものとします。
  - 額装、マット仕上げの有無は自由です。それ以外の場合は展示できるような体裁(例:プリント仕上げがサイズ以上の白のケント紙に貼る)で提出してください。
  - 一人何点でも応募可能。ただし、未発表のものに限りです。
  - 応募写真に、1. 作品のタイトル、2. 住所、3. 氏名、4. 年齢、5. 電話番号、6. 撮影年月日、7. 撮影場所等を明記したラベルを添付してください。
  - 応募作品は、入賞作品については返却致しません。選外作品は希望者には返却致します(ただし、引き取りに来てくださる方に限ります)。
  - 応募作品のネガ・データ等は、審査発表まで保存しておいてください。
  - 入賞作品の著作権は、横倉山自然の森博物館に帰属します。

**応募締切** 平成23年8月31日(水)必着 [郵送・宅急便もしくは直接持参]

**発表** 越知町広報誌及び高知新聞紙上。受賞者には直接本人にも通知します。

**審査** 応募作品を、企画展:『みんなで選ぶ! おもしろ アニマルフォトコンテスト&写真展 Part II』※として、一旦博物館ホールにすべてを展示し、入場者による人気投票と厳正な審査の結果決定致します。[平成23年9月23日(金・祝)~11月6日(日)]

**賞および景品** 「ユーモア賞」・「ナイスショット賞」・「アート賞」(各1名、各3万円と副賞)  
(※「入賞」は計10名まで、図書カード:3千円分と記念品を進呈)

### ★ご応募・お問い合わせ先

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737-12  
横倉山自然の森博物館  
『おもしろ アニマル フォトコンテスト Part II』係

みんなで選ぶ! おもしろアニマルフォトコンテストの応募作品すべてを展示!  
『おもしろアニマルフォトコンテスト&写真展Part II』  
[平成23年9月23日(金・祝)~平成24年1月9日(月・祝)予定] 横倉山自然の森博物館にて開催



高知県越知町立

# 横倉山 自然の森博物館



〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12  
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620  
http://www.town.ochi.kochi.jp/

**開館時間:** 午前9時より午後5時まで  
最終入館は午後4時30分  
**休館日:** 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)  
12月29日から翌年の1月3日まで  
**入館料:** 大人.....500円 (各20名以上)  
高校・大学生.....400円 (上の団体は  
小・中学生.....200円 100円引き。)

**越知への交通**  
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知  
JR普通 約50分

